

中学校英語科における「話すこと[やり取り]」の指導と評価の工夫
 — 自律的な学習を促す「パフォーマンス課題資料集」の活用を通して —

長期研修員 長竹 智宏

研究構想図

自律的な学習を重ね、積極的にパフォーマンスを発揮する生徒

3年間の系統的な
指導と評価の継続

パフォーマンス課題資料集のポートフォリオ「Future Passport」

- 生涯にわたる継続的な英語習得を動機付け
- 自身の学びの連続性を意識
- 毎学期の評価ポートフォリオ
- 各単元の資料集

1年 2年 3年

毎学期の計画的な
指導と評価の継続

「話すこと [やり取り]」のパフォーマンス課題に関する単元

パフォーマンス課題
(スピーキングテスト)

目標

次は…してみよう!

- (2) スピーキングテストの信頼性・妥当性・実用性向上のための評価の工夫
- (1) 新学習指導要領の三つの柱で焦点化した目標と指導の工夫

自Grade
 律的Feedback
 なExpression
 学習Daily Check
 のCommunication
 促進Basic
 進Approach

⑤ 評価のポートフォリオ化

④ パフォーマンスの発揮

③ 目標設定と振り返り

② 知識の整理と活用

① 単元の見直し

パフォーマンス課題資料集「Step by Step」の活用

教師の悩み

- スピーキングテストの系統的・計画的実施が難しく、教師間の評価のずれや生徒へのフィードバック不足が課題

国や県の指針

- 新学習指導要領施行に伴う英語教育の高度化
- 定期テストと同程度の回数でスピーキングテストを組織的に実施

生徒の実態

- 「話すこと[やり取り]」の領域は他の領域に比べて学習方法が分からず、目標設定と振り返りの学習習慣形成が不足

